

駐日ニュージーランド大使が青い羽根募金を支援

このたび公益社団法人 日本水難救済会の向田理事長は渋谷にある在京ニュージーランド大使館を往訪し、去る7月末に着任されたばかりのウィリアム・マーク・シンクレア新駐日大使を表敬致しました。その際、理事長から本会の事業内容と「青い羽根募金」について説明申し上げたところ、同大使は熱心に耳を傾けられ、今後のご支援を快く引き受けて頂きました。



シンクレア大使は、30数年前に新人外交官として来日され、横浜に2年間在住されていましたが、その際に研修の一環で伊豆半島南端の下田海上保安部に所属する巡視船「まつうら」で約1週間ほどの宿泊研修を受けたご経験があるそうです。実は、その当時「まつうら」に乗り組んでいた同世代の海上保安官達とシンクレア大使との長年に亘る友情がご縁で、このたびの表敬訪問が実現したのです。

ニュージーランドは日本から遠く離れた南半球に位置していますが、小さな島国で火山や地震も多く、日本とよく似ていますし親日的な国民も多く、日本人にとっても観光や語学の留学先としてとても人気のある国です。2011年2月にニュージーランドの地方都市クライストチャーチを襲った大地震では語学研修の若者をはじめ28名もの日本人が犠牲になる等大変な被害となり、日本からも直ちに国際緊急援助隊が救援に駆けつけましたが、その翌月には日本で東日本大震災が発生し、逆にニュージーランドが救援隊を派遣するとともに、在京ニュージーランド大使館でも発災直後から当時のイアン・ケネディ大使を筆頭に大使館を挙げて救援活動に当たる等、親身になって日本を助けてくれたことは多くの方が鮮明に記憶されていることでしょう。

新任のシンクレア大使もこれを引き継いで、着任後先ず最初に東北の被災地を慰問のため公式訪問されましたが、実は、同大使にとって東北地方は若い頃に訪ねた思い出の地でもあったのです。同大使によれば、下田で友情を育んだ海上保安官の実家が岩手県の三陸沿岸にあり、研修時代によく泊りに行っは東北各地を案内してもらい訪ね歩いたそうです。その海上保安官の実家は大津波で被災していたそうですが、若い頃の思い出深い東北だけに着任次第一刻も早く被災地を慰問するつもりだったとのこと。そして、その足で宮城県塩釜にある第二管区海上保安本部に現在勤務している旧友の海上保安官とも再会したそうです。30数年前に日本を離れてからも今日まで旧交を温めながら交際を続けてきたそうで、再会した際に、その海上保安官の襟元に着けられていた「青い羽根」に目が留まり、それは何かと訊ねたところ、元上司の

向田理事長から帰京後に改めて直接説明を受けられたらどうかと勧められたとのこと。こうしてこのたびの表敬訪問に相成ったという次第です。

我が国には、沿岸水域で水難事故が発生した際に、その捜索救助に馳せ参じてくれるボランティア救助員が全国津々浦々に総勢5万4千人もいますが、公益社団法人日本水難救済会では、そうしたボランティア救助員の活動を支えるため、国土交通省、海上保安庁及び水産庁の後援を得ながら、41の臨海都道府県に設立されている地方水難救済会や民間の海事、漁業関係団体等と協力し、「青い羽根募金事業」を全国的に展開しています。

ニュージーランドは、英連邦の一員だけにマリンスポーツの大変盛んな海洋国ですし、ボランティアによる沿岸救助活動にも長い歴史と伝統を誇る国です。本会としましても、学ぶ点が多いと思われましますし、シンクレア大使のご支援を大変心強く思っています。

引き続き、皆様のご理解とご支援もどうぞよろしくお願い申し上げます。